

デザイン仕様書

■内容

脇役*としてユーザーに寄り添う、「読書」を極める小型家具のデザイン

※テーブルやソファなどの家具を定番及び主役の家具としたとき、それらの家具にプラスして使うことで生活に快適さをもたらす「上質な脇役」となる小型家具をつくりたいという思いから、【脇役】という言葉を使用している

■基本コンセプト

- ・「読書」を日常的に行う人及び、行いたい人が抱えている困りごとやモヤモヤを特定し、それを解決する「小型家具」
 - 「読書」という行為を理解し、その行為をより豊かにするものを提案してほしい
- ・既存の家具の形に囚われない、読書という行為に特化したものであること
 - 小型の家具であれば、種類は問わない
 - 小型家具の例) スツール、座椅子、小型のテーブル、本を運ぶためのワゴン、小型の本棚など
 - 小型家具の特性を最大限に発揮するため、移動性や運搬性を重視したサイズ感
- ・愛着をもって長く使用できる、シンプルでミニマムな外観であること

■具体的な仕様

前提

- ・弊社のブランドとして、「趣味」に注目した新ブランドを設立予定である
 - 生活の中にプラスすることで趣味を行う「自分時間*」をより満喫できるプロダクトを揃えたいと考えている
- ・今回は趣味の中でも「読書」に着目した製品開発におけるデザインを求めている

【使用シーンの想定】

- ・自宅で読書を行う際に使用することを想定し、自宅内であれば特定の場所指定はない
- ・「読書」という行為に着目して、使用する場所と使用方法の提案をしてもらいたい

【デザイン】

- ・華美でない、スタンダードになり得るデザイン
- ・機能性とインテリア性のバランスが取れた、暮らしに馴染むデザインであること

【サイズ】

- ・おおよそ 600mm 四方に収まるサイズを想定例として、女性がひとりで楽々と運び、設置できるサイズ感
- ・宅配便での配送上、160 サイズ（縦・横・高さの合計が 160cm 以内）に収まる寸法であるとなお良い
 - 移動性や運搬性を担保するために、「折りたたむ」「簡単に分解する」などの機能を取り入れることも歓迎する

【素材】

- ・主材には「ヒノキ柾目（国産）」を使用する
 - ・無垢材及び集成パネル（横ハギ合わせ）での製作を想定
 - ・ヒノキ集成パネル（横ハギ合わせ）は、柾目によるオリジナルサイズ（製品に合わせたサイズ）での製作となるため、規格サイズ（3×6 板等）からの材料取りを考える必要はない
 - リペア（修繕・再塗装）を行いながら長く愛用できる素材であることから上記を採用
 - 環境配慮の観点から、「国産材」の使用を推進している
- なお、異素材の使用は想定していない



ヒノキ柾目

【価格帯】

- ・3～5 万円程度で販売できるもの

【保有する技術】

- ・木製品の一般的な加工はほとんど可能である
 - 木取り、フラッシュ、寸法カット、NC ボーリング加工、オイル塗装、組み付けまで一貫して自社内製作での商品提供を行っている
 - ・例として、NC による曲線を活かした形状の加工も可能
- その他、ボーリングによる木ダボ組み付け、ビスケットジョイント等による角度をつけた組み付け、強度が必要な場合はビス止め木栓による組み付け（木栓の位置もデザイン要素あり）なども可能となっている

ただし、高度な特殊形状加工（曲げ木やロクロ）、脚物家具（スツール以外の椅子やソファ）の製造、ウレタン塗装など吹き付けによる塗装は自社で行っておらず外注となるため、保有技術によるデザイン提案を期待する

■ターゲット・販売戦略

【ターゲット】

読書は多くの人々が親しむコンテンツのため 30～60 歳代と幅広い年代を想定しているが、コアターゲットはパートナーや家族と暮らす 30～40 歳代のうち、下記いずれかを満たす方とする

- ・読書を趣味（または習慣）とする方であり、現状の読書体験に満足できていない方
- ・自宅で行う読書という行為を、よりよくしたいと思っている方
- ・読書を習慣にしたいができていない方

【販売戦略】

- ・自社 EC サイトでの販売（新ブランド立ち上げに伴い、新規オープン予定）
- ・クリエイターが集まる EC モールでの販売
- ・自社で企画・開催するワークショップイベントでの展示、販売
- ・その他として、東京ギフトショー等の各種展示会、イベント等への出展で販路開拓を進める

■デザインに対する考え方とデザイン事業者への要望

【デザインに対する考え方】

・基本的な考え方として、生活を真に豊かにするものづくりにおいて「デザイン」は必要不可欠であり、弊社の製品開発においても大変重要であると考えている

また、顧客とのコミュニケーション、ブランドの推進を含め、企業経営においてもその重要性を感じており、その価値を活かした事業推進を強化している

・弊社での製品デザインの取り組みとして、2004 年に現代表が入社以降、代表の設計経験を活かす形で自社製品の開発に着手（弊社は 1965 年に現代表の祖父が創業、実父による法人化以降は主に大手メーカーの商品製造を行っていた）

それ以降、九州産業大学芸術学部プロダクトデザイン学科との産学連携商品開発事業を開始するなど、外部との協働も行いながらデザインを重視した製品開発に取り組んできた

【デザイン事業者への要望】

・特定の人困りごとやモヤモヤ（顕在ニーズと潜在ニーズ）にしっかりアプローチができる、ユーザーに寄り添うデザインを行っていただきたい

→上記の通り、弊社ではデザインを重視した製品開発を行ってきたものの、プロダクトアウト視点のものづくりに偏る傾向があった

新ブランドは BtoB から BtoC へのビジネス展開を加速するためのブランドでもあり、マーケットイン視点を重視した製品開発を行いたいと考えている

・構造上の制限などを厳しく設けず、デザイナーのユニークな視点を最大限に活かして自由にデザインしていただきたい

→弊社は大手メーカーの商品製造を皮切りに、コントラクト事業を通じて培った「作り切る技術」が強みである

「作り切る技術」とは、案件ごとに異なるあらゆる形、幅広い種類の家具を試行錯誤して作っていくことであり、構造的に難易度の高い製品、一般的でない仕様にも柔軟に対応することができる

このような弊社の強みを活かすことができるデザインを期待している

・新ブランドの商品群は、弊社の既存のブランドとは違う方向性を目指しているため、弊社のこれまでの商品群とは異なる、洗練されたインテリアにマッチするシンプルでモダンなデザインを期待している

→既存のブランド (kifto) は子ども向け家具のブランドであり、親しみを持てるかわいらしい外観や成長に合わせた使い方ができる機能性が特徴



写真：自社ブランド「kifto」の商品群

■実施スケジュール（予定）

2023年9月下旬：デザイン事業者決定、顔合わせ

※顔合わせ以後、月に1回以上の定期的な打ち合わせを行う予定

2023年10月～11月：デザイン決定

2023年12月～2024年1月：一次試作、モニター実施

2024年1月～2月：必要に応じてブラッシュアップ、二次試作、モニター実施

2024年2月下旬：最終デザイン決定

2024年3月：最終試作及び製品化

2024年7月：福岡デザインアワード出品

2025年2月：東京での展示会出展

■プロジェクト参画企業等

企業名：一龍木工有限会社

主な事業：

コントラクト事業：一般家庭向け家具製造、建築に付帯する造作家具製作、その他 OEM 木製品製造を行っている

自社事業：子ども向け家具ブランド「kifto」の木製家具製造及び販売、木工ワークショッププログラムの企画及び実施など

弊社参考 URL：<https://moku-ichiryu.com/>

自社ブランド参考 URL：<https://kifto.base.shop/>

■語句説明（必要なら記載）

※【自分時間】・・・ここでは「自分のために、自分の好きなことを、自分のペースで行える時間」と定義している